
my world

うわっぽい

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

my world

【Z-コード】

Z8364Z

【作者名】

うわっぽい

【あらすじ】

愛と勇気と感動と笑いとその他もろもろがつめこまれてるかもしれないファンタジー！

暴力的な場面が苦手な方は控えめに。残酷な描写の範囲をあまり理解していませんがそこまでヤバいもの（頭がバーン…など）はない・・・と思います。

my world start

どうしてこうなった。

気づいたときには、俺は漫画などであつがちなファンタジー世界に迷い込んでいた。

時は20分前。

俺の名前は 渡辺 勇高校生である。

いつもどおりに学校へ行き
いつもどおりに授業を受け

いつもどおりに家に帰つてゐるときだつた。

「やつべ！ 雨降つてきた！」

朝、今日は一日中快晴だと自信満々にテレビは言つていたが完全に外れてしまつている。

どこかで雨宿りといつ手段もあつたが、この住宅街にはそんな場所はなかつた。

「・・・仕方ないか」

90度体を方向転換し狭い路地に入る。少し汚いが、立派な近道である。

「氣味悪いからあまり通りたくないんだよな・・・
ダッシュで駆け抜けようとしたときだつた。

「うわっ！」

路地の真ん中に扉が仁王立ちしていた。突つ込む寸前にギリギリストップ。

「なんでこんなところに扉が・・・」

もちろんドアの裏側には路地の続きしかなく、建物などなかつた。

「・・・待てよ？」

これは、アニメでよくある開けたら好きな場所にいけるとか「
どこで ドア」じゃないのか！？

100億分の1程度のその確率を信じ、扉を開けた。

今ではそんなこと信じずに、ただその扉を横にどかせばよかつたと後悔している。

俺の冒険が、始まろうとしていた。

my world start (後書き)

感想、コメント、アイディア、その他なんでも募集なう

2話「初めての着地」

扉の先にマイホーム（といつてもマンション）か、ただの扉で終わ
りか、どちらかだと思っていた。

行き先は

「あれ? ビーチだ? 」

0 . 5 秒で体が異変に気付く

以前ニニ芝、バソジ、ジアソプニンソニニガ

ヒモはついていない！

徐々に加速してしきなかに落下

下をバツと見てみた。

岩ノ刀をかざるとか、力岩、されにかざ

! ?

よく見ると、大きな岩とがつた岩の間に川がある。上空で体を動かし、必死にその川の方に体を動かす。

目の前にとがつた岩の先端が一瞬移り、そして水の感触とともに意識は薄れていった・・・

2話「初めての着地」（後書き）

ユウさんはたとえ落ちてる間でも意外と考えられる人。

3話「困惑と田舎こと」

ずいぶん流されて、意識は復活した。

家に帰つたらこの勇さんの武勇伝をツウイッターで報告するんだ・・・

空中でのフラグ回収に失敗し、川の端にある小さな岩に飛び登つた。

「・・・状況を整理しよう」

頭の中でもさまざまな場面が思い出される。

学校からの帰り道、雨が降つてきた。

傘が無いので、急いで帰ろうと近道の路地に入つたら扉があつた。

好奇心で開けたらこうなつた。

「・・・」

3番目に疑問しか感じられないが、今はこれ以上の説明のしようがない。

「プラス思考に考えよつ・・・」

その結果、プラスなことといつたら明日学校いかなくていいということだけだった。

やれやれ・・と考えることをやめ、机の上で横になり休憩を始めた。いつの間にか、眠つていた・・・

ドン！

急に体に衝撃が走り、田を覚ました。

「・・・」

体の上に女の子、しかもかなりかわいい。

近頃、変な事だらけでついに幻覚が見えてきたのか・・・と自分の

精神に寿命が来ている事を悟った。

寝よつ。もつ一回寝れば直るはずだ。と再び田を開じた。

「ちょっと…寝てないで助けてよ…」

幻聴か、幻視までくると逆に自分がすげえと思ってくる。

幻ちよ

ガバッと体を起し、すと、むつきの女の子、それとゲームでありがちな怪物がいた。

「早くアーティスなんとかしてよおー！」

幻覚系女子に頼まれても・・・と思つたが自分もピンチ（精神的に

（）である。これが「販賣」を起引した。

この女の子も、怪物も幻覚でもなんでもないと知るのに、時間がかかった。

3話「困惑と出来こと」（後書き）

女の物との出来事なんですかって幻覚……と思つたら負け。

4話「必殺技、破裂!」と女子の子、ティアラ「

秘傳
二十八卦

怪物は俺の突然の不意打ちに反応することすらできず、川に落ちて流されていった。

つまり現実・・・

こんなのが『ル』の中だけで十分なああ！」

「あ・・・あの・・・」

声を聞きそついえ、と思いつながら後ろを振り向くと例の幻覚系女子、いやこれも現実なんだろう。

?

何にケーブルでのビロインとの出会いが1位に出できそ二流れは

三三) では、度刃 まつたてまへななへ氣がす。この異能

間はその苗字は捨てよ。」

す。
一

アスカリア王国

「…そ、それで、もしよかつたら隣町までついてきてもらえますでしょ
うか…」今までたくさんモンスターがいるなんて知らなくて・

その選択肢は「はい」か「いいえ」しか存在しないそと、思いたから承諾した。

その答えにティアラが喜んでいる姿からは何か違和感が感じられた

が、そんなわけないかと見過しす」と云つた。

4話「必殺技、炸裂! -ヒ女のト、ティアラ」（後書き）

「…んなのゲームの中だけで十分だああー！」 イレコウちゃんの名言。

5話「引き取り」

ティアラのこいつ隣町に着いた。名前はコーテン町。

時刻はすでに夜の8時半（ちなみに一日が24時間なのは同じらしい）

「コウちゃん。私がお金をだすので今日は宿に泊まつてってください。

よく考えたらサイフはもつてるがもちろんすべて使えない。本望ではないがお言葉に甘えさせていただくことになつた。

部屋に入るなり、一日の疲れがドッと増したのかすぐに眠りについてしまつた。

よく考えてみたらティアラと同室。でもこの世界では男女同室は普通なのか。

そんなことより早く家に帰りたい・・・

夜中に目を覚ました。原因はあの空中での疲れだと思つ。首を傾けると視界の先にはティアラのベッドがある。これなんてエロゲかと思つたときだつた。

「ティアラがいない・・・？」

身を起こし、部屋を見渡すが、どこにもティアラの姿は無かつた。きっとトイレだらうと思つ反面、危機感を感じ、部屋の外にでる。と、そのときだつた。

「約束どおりちゃんと連れてきました」

宿屋の外から声が聞こえた。それもティアラの。

「つむ、よくやつた。明日の朝7時ごろに引き取りに行くから部屋から絶対だすなよ・・・」

男の声が聞こえた。引き取る・・・って俺のことかー??

「それで、約束は守ってくれますよねー！」

「ああ、取引は守るのが我々魔族だからな。それではしつかり見張つとけよ」

戻つてくる気配がしたので急いで部屋に入り布団の中に飛び込んだ。

明日は朝4時に起きよつ・・・

5話「恋愛取つ」（後書き）

さうあるー。勇ー。

6話「つかつか女は騙されやすい」

朝になつた。昨日のことが頭からはなれず、ガバッと身を起しす。

「・・・寝過ごしたああああああああ！」

時間は6時、話によれば7時に俺は売られるらしい。

部屋を見渡すがティアラの姿は無い。

やはり部屋に鍵をかけられていた。

そこは3階なので窓から出ることもできない。

「ティアラ・・・」

情報収集のためだといつてホイホイ美少女についていくのは失敗だつた。

考えてみると最初の出会いも無理やり作り上げられたものだったのか。

脱出ゲームなら今まで何回もやつてきたが、リアルは初めてである。しかもゲームと違つて脱出できるように仕掛けは組まれていない。それでも、あと一時間でここから出るしかなかつた。

「そろそろですか・・・」

部屋の外でティアラは例の引取り人が来るのを待つていた。

「ゴウさん、ごめんなさい。これしか方法は無かつたの。」

ドンガラガツシャアーンー！

突然部屋の中から爆音が響く。

ティアラは驚いて部屋を空けて中を見た。

「い、いない・・・！？」

飛び降りでもしたのかと窓の方に駆け寄つたときだつた。

「別に脱出なんかしなくても外からドアを開けさせればいいだけの話だつたねー」

ティアラが振り向くと、扉のところ……

「ゴウさん……」

「さて、時間もないし全部話してもらおうかー」

6話「ウナつめ女は騙されやしない」（後書き）

部屋の壁にガラスの置物を投げつける。
これだけで脱出できるとこいつわざがコウセん。

7話「時すでに遅し」

「・・・といつわけです」
省略してしまつたが「いつ」ということ。

ティアラは実はここアガスリア王国のお姫様。
魔族に一ヶ月に30人の人間を差し出さなければ戦争をすると脅された。
しかしそれは不可能に等しかつたため、魔族に代わりの条件を言い渡される。

それが、俺を売る」とらしい。

「戦争・・勝てばいいんじゃないの？」

ティアラは即答した。

「駄目です。今まで魔族に勝てた国など一つもありません。」

そこまで強いのか・・・

「だから、どうしてもあなたを彼らに渡さなければならぬのです

！そうしないと大切な国民が・・・」

見ず知らずの旅人（そう言い通している）の命よりも国民用30人を大切にする。

正しい判断だとは思うが、納得はしきれない。

「大体なんでその・・魔族は俺を欲しがるわけ？」

「それは私にもわかりません、でも生きてつれて来いと言われたので、きっとなにかの役にたつのではないでしょうか？」

結論、選択肢は二つになった。

一つはティアラの言うことを聞き魔族にわが身を差し出す。
もう一つは逃げることだ。もともと俺の知つたことじゃない。

どちらも選びたくないがどちらか選ばなければいけない。

俺が高校を選ぶときよりも迷つことだった。

「あつー。」

ティアラが急に叫び、俺の後ろを指差す。

殺氣。全身に寒気が走り部屋の中に飛び込んで距離をとった。
入り口の方を見ると、そこには一人の男が立っていた。

「見つけたぞ・・・ユウ！」

7話「時すでに遅し」（後書き）

宿屋の主「3階がちわがしこのう・・・」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8364z/>

my world

2011年12月26日22時59分発行